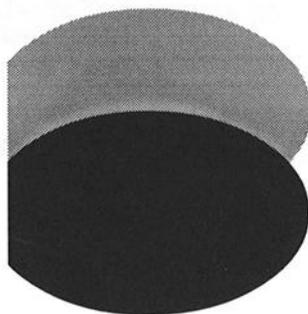


1999428

絵本学会 NEWS No.6

発行：絵本学会
発行日：1999年4月28日
編集：絵本学会事務局・広報委員会
事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
武蔵野美術大学芸術文化学科今井研究室内
TEL：0423-42-6091 FAX：0423-42-5173
<http://vcd.musabi.ac.jp/ehongaku/homepage.html>



絵本学会

「絵本フォーラム'99」のお知らせ
シリーズ絵本美術館
会員活動報告
伝言板
インフォメーション 絵本関係展覧会・イベント
事務局からのお知らせ
第2回絵本学会大会開催のご案内
理事会・運営委員会 記録
専門委員会から

※絵本学会事務局の住所が、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン研究室内から芸術文化学科今井研究室内に変更になりました。

絵本フォーラム'99のお知らせ

絵本フォーラム in 関西 part 1

絵本をもって集まろう! - 「私が選んだこの一冊」 -

皆様もご存知の通り、昨年1月と9月に東京の世田谷文学館で「絵本フォーラム'98」が開催されました。そして今回、関西においても、会員の方々にお集まりいただき、絵本についてさまざまに語り合う場として、「絵本フォーラム in 関西 part 1」が開催されることになりました。

今回のテーマは、「私が選んだこの一冊」。参加者全員がご自身の選んだ絵本一冊を持ち寄って、その絵本に寄せる想いを互いに語り合うという試みです。

全体は3部構成で、まず午前中の第1部では、異なる分野で活躍されている4人の方々に、それぞれご自身の立場・観点からお選びいただいた「この一冊」について、語っていただきます。午後の第2部では、4つの小部屋に分かれて、第1部の話題提供者を囲んで、皆様のご自由にご自分の「究極の一冊」について語り合ってください。途中でtea breakをはさんで、第3部は、別の部屋を覗くのもよし、引き続き同じ部屋に居残って、突っ込んで意見を戦わすのもよし、ワイワイガヤガヤと絵本についてトークを楽しんでいただければ幸いです。

当日は、万博公園の木立も美しく新緑に輝いている頃です。お時間があれば自然文化園を散策して、咲き誇る花々もお楽しみください。また、まだ会員でないお知り合いの方も、お気軽にお誘いください。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

(企画委員会・香曾我部秀幸)

●第1部 「私はこの絵本が…」編

各界で活躍中の4人の方に、自分自身の「この一冊」について語っていただきます。

1. 子どもと共に読む立場から 村川京子(大阪薫英女子短大)
2. 絵本の創り手の立場から 松野正子(作家)
3. 造形表現を論じる立場から 中川素子(文教大学)
4. 社会的立場(住環境論)から 渡邊公生(設計家)

●第2部 「私にも言わせて」編

4つの小部屋に分かれ、第1部の話題提供者を囲んで、参加者が持参の「この一冊」を紹介し合い、互いに語り合うひとときです。

●第3部 「あの人の話も聞きたい」編

別の部屋へ移動して新たな視点から語り合ったり、同じ部屋に居残って突っ込んで意見を戦わせてもOKです。

[開催概要]

日時= 1999年5月16日(日) 午前10:00~午後4:30
(午前9:45開場)

場所=大阪国際児童文学館 ※

主催=絵本学会/大阪国際児童文学館

参加費=絵本学会会員 500円・非会員 1,000円

定員= 150名

申込方法=ハガキに住所・氏名・「私が選んだこの一冊」の絵本の題名とそれに関するコメントをご記入の上、下記までお送りください。

《絵本学会関西企画委員会》

〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘3-104-3 香曾我部 方
TEL・FAX: 0727-77-5646

※ 大阪国際児童文学館

〒565- 大阪府吹田市千里万博公園 10-6
TEL: 06-876-8800

申し込みはがき記入内容

**絵本フォーラム in 関西
参加申込**

住所 _____

氏名 _____

〈私が選んだこの1冊〉の
題名 []

その絵本に関するコメント



**絵本フォーラム '99
絵本をもって集まろう!
「あなたにとって“絵本の魅力”とは？」**

[日時] 1999年7月18日(日) 10:00~16:30

[会場] 世田谷文学館 文学サロン(京王線芦花公園駅南口徒歩5分)

[主催] 絵本学会/世田谷文学館

◆第一部 問題提起◆

10:10~12:00

お持ちいただいた絵本をもとに、それぞれの立場から私にとっての“絵本の魅力”を語っていただきます。

1. 絵本ファンの立場から 江國 香織(作家)
2. 子どもとアートの立場から 結城 昌子(アートディレクター)
3. 編集者・デザイナーの立場から 小野 明(絵本編集・装幀家)

◆第二部 談話サロン◆

13:30~15:00

3部屋に分かれ、第一部の話題提供者を囲んで、互いに語り合うひとときです。参加者には持参の1冊について紹介していただきます。

◆第三部 報告・座談会◆

15:00~16:30

各談話サロンからの報告と、話題提供者による座談会を行います。

[参加費] 会員 500円・非会員 1,000円(資料代として)

[定員] 100名・先着順

[申込方法] 往復はがきの往信裏面に、住所、氏名、性別、電話番号、参加談話サロン名(江國、結城、小野のいずれか)、お持ちいただく絵本名を明記し、7月5日(日)までに下記へ。

[申込・問合せ先] 世田谷文学館 絵本フォーラム係

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10

TEL:03-5374-9111 FAX:03-5374-9120

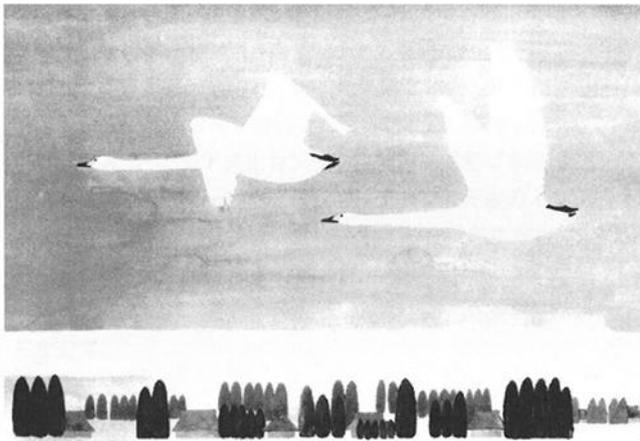


白鳥伝説ゆかりの地へ

お伽の国 大島町絵本館 館長 高井 進

1. なぜ、大島に絵本館

森とみずうみの美しい原野—三島野—に飛びかう白鳥……
 遠い遠いむかし、ホムチワケノミコという口のきけない王子様が
 大勢の家来と狩りをなさっているとき、一羽の白鳥が飛んできました。
 それをごらんになった皇子さまは、生まれてはじめて、口をおき
 になったのです。皇子のお父さまは、大そうお喜びになり、その白
 鳥をつれてくるようおいつけになりました。家来は野を越え山を
 越えとうとう越(こし)の国まで白鳥を追って来ました。その白鳥の
 おりたところが、鳥取の里だということです。



上文は上の絵と共に昭和63年大島町発行の「おおしま ふるさと
 のえほん」の巻頭を飾る文章である。この伝承には記紀の根拠があ
 る。11代垂仁天皇の頃に国和那美(わなみ)郷の水門(水戸)からの白
 鳥献上の記述があり、この水門とは射水郡の鳥取村と断じたのが本
 居宣長であった。

鳥取村の村建て(むらだて)がいつの時代かは不明であるが、辺りに
 ムラが群を成していたことは出土している土器などの分布で容易に
 推測でき、またごく近年までその近郊が水郷の里であったことを考
 えると、鳥取村周辺が古くから白鳥の群遊地であったと思える。い
 ずれにしろ大島町は近代に入っても自然に恵まれ、近郊の都市に米
 や野菜を供給してきた純農村であり、それ故にこそ他にみられない
 独特の民話や伝承を数多く育んできたのである。

昭和の末年「ふるさと創生」が叫ばれたが折りも折り、大島町は開
 町100年を迎え町に伝わるこれらの民話を採録し、心の糧を先人
 に求め、町民が伝承文化を共有することで町民のアイデンティティ
 をめざす事となった。それが「ふるさとえほん」として開花し、更
 に絵本館創設運動となっていったのである。

2. 開館5年の活動

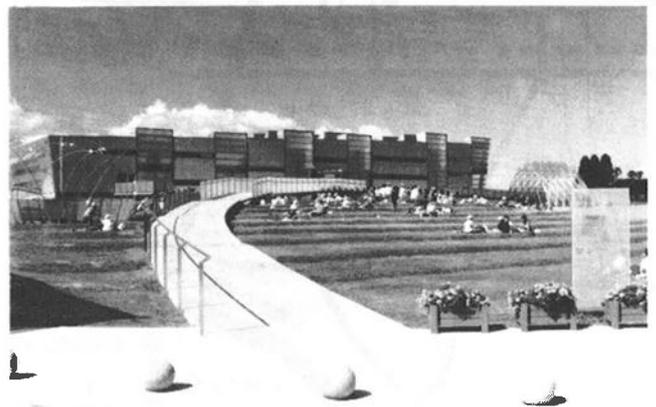
「ふるさとえほん」を核とした大島町の第3次総合計画は、絵本文
 化の推進を唄いあげ対策室を設置し、理想に向けて歩みだした。そ
 して、平成6年8月にその拠点としての絵本館の開館へとこぎつけ
 たのであった。

それ迄の5年間の揺籃期はまさしく生みの苦しみの時代であらゆる
 試行が行われた。町民による絵本文化推進委員会や町議会で激し
 い議論、そして専門家集団による“絵本会議”を重ね、更に季刊「絵
 本通信」の発行は30号までに及んだ。町長の「幼児こそわが町の
 宝」、「21世紀に向けてチャレンジ」の言葉に励まされ、多くの外
 国からの賓客や知事をはじめとした県内外の来賓を迎えて挙行され
 た開館式は5年前の雲一つない真夏のことであった。

以来今日までのあゆみについては、紀要『おおしま絵本文化』がそ
 の実践記録を詳細に示しているが、開館以来職員の一貫したコンセ
 プトは、以下のようなものである。

- (1) 零歳から百歳までのすべての来館者がこの館で想像と再生の
 喜びを獲得できるよう心掛ける。
- (2) 来館者に夢と創造の世界を広げて頂くため職員自らが新たな
 理念を構築・開示できるよう研鑽する。
- (3) 国際的感覚を養うため外国との積極的な交流を図り、知識の集
 積と発進に努める。

この理念の下で来館者に分かりやすい運営を図るため、3つのキー
 ワード、Feel, Make, Tellによって館内の利用を誘うこととした。
 そして常に、最高のもてなし(Hospitality)を心掛けるものとした。
 手本のない絵本館の運営であり週一度のMeetingを軸に朝夕の打
 合せ会で知恵をだしあった5年間であった。



(大島町絵本館)

3. 新世紀に向けて

5年目の節目に当たり過去の反省の上に立ってより良い絵本文化事業はどうあるべきか議論を重ねた。経験の上にあぐらをかいては発展はない。問題点を洗い出し、更に新規な考えや活動を展開していかなければ厳下の社会状況の中では理想の実現が困難であると考え、以下の諸点に留意することとした。

(1) 積極的に出張講座を広める。

火曜日から金曜日まで4日間幼児教育機関から高齢者施設に至るまで要請に応じて可能な限り出張講座を行う。

(2) 県内外の関連団体との輪を広げ職員の自己研修に努める。

絵本学会・JBBY・富山県児童文学協会・富山県博物館協会など。

(3) 外国との交流を更に活発化する。

スロバキア国をはじめ開館以来交流をもつ中欧、ロシア、アジア各国と絵本を通じて一層交流を深める。

(4) 絵本のすばらしさ、必要性を弘布する。

絵本館長の絵本講座を開講し、絵本から学ぶ楽しさを確保して頂くようにする。

(5) 第2回絵本学会を通して、絵本関係者の学びの輪を広げる。

“もっと自由に、もっと豊かに”をテーマとした本学会の成功を目指し、殊に又来県される会員の方々に富山の良さを感じて頂けるよう努める。

子どもの創造力を高める新しい教育法のプロジェクトである、ブルー・ムナーリのワークショップを行い、その真髄にせまる。

大島町絵本館

[代表者] 高井 進

[区分] 財団法人

[所在地] 〒939-0283 富山県射水郡大島町鳥取50

TEL:0766-52-6780 FAX:0766-52-6777

[交通手段] JR富山駅より車で40分 JR小杉駅 越中大門駅より車で5分

[開館時間] 10:00～18:00(シアターホール等のイベント開催日は10:00～21:30)

[休館日] 月曜日(祝日の場合はその翌日)、月1回資料整理日、年末年始(12月28日～1月4日)

[入館料] 大人500円・中高生300円・小学生100円(団体20名以上は2割引)

(大島町絵本館地図)



1998年度 ユネスコ・アジア文化センター主催

野間児童絵本原画コンクール入選者

プリーダー・パンヤーチャント先生に聴く

バンコク子ども図書館ボランティア 竹内由子



【はじめてのおつかい】タイ語版(ガン・レーク・コーン・ミーチャン=ミーちゃんのはじめてのしごと) 中の書き文字はプリーダー先生がタイ語に描きなおされています。(表紙の牛乳に注目して下さい) 訳者はポアン・ノン・ニヨムカ先生。

タイの絵本出版界は今元気です。タイは一昨年来からの未曾有の経済不況の中にありながらも、貧しい田舎でも都市のスラムでも、熱心にお話会活動に巡って、子供たちの眼を輝かせている先生方がいます。そして、紙代の高騰する中でも、少しでも良い本を出そうと熱意に燃える出版社があります。一般書店ではまだなかなかですが、そうした先生たちのための書店や、大がかりなブックフェアでは、想像以上にたくさんのカラフルな絵本がずらりと並んでいるのを見ることができます。東南アジア諸国の中でも、タイ人の陽気で自由を愛する性格は、アンコール・ワットの壁画にも描かれているぐらい、古代から固有のもので、絵本を英語でなく、タイ文字のタイ語で出版している点は高く評価されるべきだと思います。その中で、98年度ユネスコ・アジア文化センター主催野間児童絵本原画コンクール賞を受賞したプリーダー・パンヤーチャント先生のインタビューをご紹介します。プリーダー先生は1957年生まれ、現在は幼稚園経営のかたわら、次々と絵本を出版している、タイ絵本界の第一人者の一人です。とてもやさしい、ユーモアある語り口をもった先生です。

1. どうして絵本作家になろうと思われたのですか？

(答) 私が児童書のイラストや絵本を書く理由は、子ども向けの絵本というものは、私たちの言いたいことを子どもにうまく伝えることのできるコミュニケーションの一つだと思うからです。そしてまた、子ども向けの絵本は、大人の想像力を子どもに伝えるだけでなく、言葉や芸術の面を養い育てることのできるものとしても用いられると思います。



プリーダー・パンヤーチャント先生

2. 絵本を書き始められた時、苦労されたことはありますか？

(答) 子ども向けの絵と文章を書くにあたって、最初苦労した点は、子どもの想像力を理解できない、もしくは、子どもの思考力にうまく届かないという点でした。私達は大人で子どもたちからとても遠くへだたっています(つまり年齢がということですが)。ですから、想像したことを伝えようとしても互いにしっくりいかなかったのです。これを解決することができた方法というのは、幼稚園に頼んで、その中で教えたり、ストーリー・テリングをすることだったのです。はじめは子どもたちに語りかけても、5分ともたせられずことばにしまったものでした。どんなふう語りかけたらいいのかわからなかったからです。しかし、お話をしながら黒板に絵を描く方法を使うようになって、やっと、ただ次から次へとちがう話をしゃべり続けるよりは、子どもたちとずっとうまくコミュニケーションできるということが、明らかになったのでした。

3. 御自分の作品の中で好きなのはどれですか？

(答) 自作の本の中で(イラストと文章を書くことも入るでしょうが)、絵本で好きなのは『ライオンの王さまとねずみ』(パンヤー出版、仏暦2525年作(訳注:西暦1982年))、『戸外の遊び』『水辺の遊び』『森の中の遊び』のシリーズ、プラータピアン出版、仏暦2535年(1992年)作、この作品の成果が、受賞作『庭の中の木』と『身のまわりの木』でメッセージを伝える手法にまで結実しました。この二作も同様に好きな遊びのシリーズです。(訳注:これら五作品は、タイで忘れられかけている、子どもたちの自然との触れ合いや、自然のもので工夫した遊びを描いています)

4. 他の作家の中で好きな方はどなたですか？

(答) 他の作家で好きな作家は、大好きなのは、タイ人では、チーフン・ウィサーサ先生の作品、(訳注:お二人はよく組んで仕事をされています。『おえかき話』『グラドックグラディク(ぼったがびよんびよん)』、チーフン先生が絵も描いた『はみがきフォンくん』は私たちの図書館でも人気) その他の作家はまあまあでしょうか。外国作家の中では好きな作家はたくさんいます。しかし絵と話の両面で推奨したい特別な作家は安野光雅さんです。その他にも大好きな作家はとてたくさんいます。なぜならその方たちはとてもうまく子どもたちに想像力を伝えているからです。



野間賞をとった『トンマイ・ナイ・スアン』の表紙

5. タイの文学と児童書についての関わりについて御意見をお願いします。

(答)タイの文学はほとんどの話も読み手の空想を満たすために創作されました。そして多くの物語は、宮廷内の演劇(伝統仮面劇にもその他のものにも)に使われるために創作されました。(訳注:『ラーマキエン』などに代表される)ですから子どもに適したタイ文学というのは非常に少ないのです。しかしこうした文学の中にも、子どもたちのことを理解した創作もありますし、反対に子どもたちが理解できる空想物語もあります。ですからタイ文学の中でもたくさんのお話があり、もし子どもたちに薦めるとすれば、試されるべきであるし、子どもたちに特別に選んで話して聞かせてあげるとも思います。

6. 日本の人たちに何かメッセージをお願いできますか。

(答)日本人のことはあまりよく知らないのです(まだ日本に行ったことがありませんから)。しかし、日本人の知り合いのいる人から聞いたかぎりでは、日本人というのはかなりまじめで一生懸命なので、ストレスがたまりすぎに見えるようです。日本の皆さんにはリラックスしてもらって、おもしろがりやの気質を今よりももってほしいです。なぜならすべてににこやかに、(世の中には確かなことなどないとはいえ、)ベストをつくすことはできます。しかし、我々はベストを尽くせるようになるためには、良い感情、良い精神、良い健康とともになければなりません。そしてもしその良い結果を他の人にまで送ることができれば、それは素晴らしいことでしょう。(おやおや、ついお坊さんのお説教のようにしゃべりすぎてしまいましたよ、ここで止めるのがよいでしょう)

フリーダー先生の受賞作は、タイの文化や自然の良い面を保存していきたいというメッセージのもとに描かれていますが、その自然の樹々の克明で美しい描写と、子どもたちの楽しそうな動きによって、絵本世界は広がりを見出し、一つの固有の文化の枠を越えて共感をあたえる力をもつようになっています。タイ文学というのは、伝統韻文劇と仏教説話の影響をたいへん強くうけているという面でも、他国が一筋縄では理解しづらいところがあります。ましてや、この頃は、先進国の心の荒廃の轍を踏むまいと、仏教教育と伝統文化保護は、いっそう重要視されています。そのような特殊な文化の中で国際性をもつ絵本を生み出すのは、たいへんなことと思いますが、

逆にまた、ファンタジー文学等にとっては、フリーダー先生の言われるように、今だ踏み入れられざる、魅惑的な素材の宝庫でもあります。また、韻文も今でもだいにされてい、国語の教科書でも、各学年一単元ごとに、必ず要点を韻文にしてあるぐらいですが、タイ語には声調があるので、音読するとリズムやメロディーがついて、お話会で子どもたちをのせるのには、たいへん効果的でおもしろいのです。受賞作も、チャーワン先生が韻文の文をつけています。フリーダーというのは、サンスクリット語で「喜び」とか「満足」という意味だそうでその名まえは、先生の性格にも主張にも現われているようです。



タイのおはなし会
チャーワン・ウィサーサ先生が自作の『イーレンケンコーン』を観客の子どもたちを呼んでいっしょに唱和させています。この絵本は韻文体で書かれています。



タイのおはなし会
チャーワン・ウィサーサ先生が自作『はみがきフォンくん』を紙しばいにして語ります。このアイディアは私たち日本人会/バンコク子ども図書館のもの。フォンくんにはむすこさんが扮しています。

子どもたちの心に種をまく！

私はJPIC(出版文化産業振興財団)の読書アドバイザーとして、現在関西地区の書店で「絵本の読み語り」をしています。

家庭文庫や図書館では見慣れた風景ですが、書店では児童書専門店を除いてはめずらしいのではないのでしょうか。

ではなぜ今、書店で「絵本の読み語り」をしているのか？

今まで書店では本をたくさん並べておくことが、即お客様(読者)への最大、最高のサービスと考えられていました。(大型書店の出店ラッシュに見られるように)。もちろんこの考えは今でも間違いではありません。しかし、大きい、広い、本が多だけが書店の絶対条件であれば、中小の書店は消えるしかありません。特に子どもの本(絵本や児童文学)を求めのお客の多くは、幼い子どもを持った母親や子どもたち自身です。自分の住んでいる近くの書店で手に取ってみたい(選びたい)と思っています。でもそのような書店の多くは、雑誌、コミックが中心の品揃えで、子どもの本はごくわずかしか置いていません。置いていても、安っぽいアニメ絵本や大量に売れるキャラクターものばかりです。だからますます本当にいい子どもの本をを求める客の足が中小書店から遠のいていくのです。大型書店といえどもこの傾向はあまり変わっていません。このままだと子どもの本離れ、読書離れが加速度的に進み、将来の出版業界にとって大変な事態になると、心ある業界の人達は考えたのです。そこで最近業界の動きとして起こってきたのが、学校での「朝の十分読書」や書店店頭での「絵本・おはなし会」なのです。昔から読み継がれてきたいい絵本やおはなしを子どもたちに聞いてもらうのと同時に、そのような質的レベルの高い絵本や読み物を店頭にならべて、お客様に提供しようとするものです。今一度地域の書店として何をすべきか、原点に立ち返って行動しようとする考えが根底に有ります。子どもは本質的に本は好きです。特に文字が満足に自分で読めない時代は大人がその手助けをする必要があります。それが将来その子が本当に本が好きになるか否かのカギを握っているような気がします。子どもを取り巻く大人がそのことに気付いて、家庭で、幼稚園で、学校で、書店で、様々な場所で子どもたちに本への誘いの手を差し伸べる必要があるのです。

私はそんな考えの元に仲間の読書アドバイザーと協力し、土日に書店へ出かけ子どもたちに「おはなし」を手渡す活動を続けています。まだまだその歩みは遅いかも知れませんが、子どもたちの心に絵本の種を蒔く気持ちで、いつかその絵本の種が芽を吹き、花を咲かせ、実がなることを夢んでいます。

関西の書店で「絵本の読み語り」を定期的に行っているところは下記の通りです。絵本学会の皆さま、一度のぞいて見て下さい。

- 第2土曜日・・・京都市伏見区「大垣書店伏見店」
・・・兵庫県三木市「グリーンブックス」
- 第2日曜日・・・大阪難波「ジュンク堂難波店」
・・・兵庫県川西市「アボス」
- 第3日曜日・・・滋賀県草津市「近鉄草津ふたば書房」
- 第4土曜日・・・滋賀県大津市「紀伊國屋書店大津店」
・・・滋賀県草津市「ひらがきA・スクエア店」

○お問い合わせ

出版文化産業振興財団JRAC事務局

TEL03-5211-7282

(諸岡 弘)

手作り絵本巡回展

私は、「かりんとうの会」という手作り絵本の会に入り、細々とですが、絵本の制作を続けています。今年の作品がようやく出来上がり、落ち着いてこのレポートに取り掛かることができました。

「かりんとうの会」と同じような会が、長野県、岐阜県、愛知県の三県にまたがって、14地区にあり、手作り絵本三県連絡会として、お互いに連絡を取り合いながら絵本の制作を続け、一年に一度発表の場を設けております。毎年、4月から7月にかけて、全作品が各地区を巡回します。新作ばかり、200余りが一堂に会するので、これは見応えがあり、自分たちの地区に回ってくるのを皆楽しみにしております。

手作り絵本の魅力は、いろいろあると思いますが、一言で言えば、形にとらわれないという事でしょうか。題材(内容)、素材すべてが自由で、自分の興味に応じて、作りやすい形で作ればいいのです。自分史、家族の記録、短歌、詩、俳句、手紙、お話、etc.と内容は様々です。布の絵本、仕掛け絵本、パタパタ絵本、……ありとあらゆる、いろいろな形があります。内容に応じて、作る楽しみが膨らみます。押し花が好きな人は押し花で、版画、切り絵、ちぎり絵、布、折り紙、水彩画、写真、パソコン、自分が作りやすい技法で作ればいいのです。

私がこの会に入ったのも、そんな魅力を巡回絵本展で知ったからです。そして、いろいろな方との出会いがありました。年齢も、職業も、様々な方が、手作り絵本の会に入っておられます。会の方々の触れ合いもまた、絵本を作る励みになっております。私たちの会では、毎月一回例会を持って、製本や技法の勉強をしたり、共同制作の準備を進めたりしています。動物の紙版画をひとり1まいづつ作って持ち寄り、一冊の絵本を作った年もありました。今年は布の動物パズルを作りました。そんな共同作品を見るのもまた、巡回絵本展の楽しみでもあります。

絵本を作る作業は根気がいりますが、会の方々と家族に支えられながら、毎年一冊づつ、作っております。5冊、10冊、と自分の本が増えて、おばあちゃんになるまで作り続けられたらいいなと思っているこの頃です。

皆さんも、是非、手作り絵本巡回展にお出掛けください。そして手にとって、手作り絵本のおもしろさを味わっていただきたいと思っております。今年はどんな絵本と出会えるのでしょうか？

手作り絵本巡回展

主催：手作り絵本三県連絡会 TEL:026-292-0801(酒井)
TEL:026-278-3578(森)

後援：長野・大町・松本・駒ヶ根・飯田・波田・富士見・多治見・高山・荻原・金山・各市町村教育委員会・上田市社会福祉協議会・メルヘンハウス

1999年5月8日(土)9日(日) 波田町立図書館

15日(土)16日(日) 富士見町コミュニティプラザ

5月22日(土)23日(日) 松本市中央図書館
 29日(土)30日(日) 荻原町星雲会館
 6月5日(土)6日(日) 宮村市民会館
 12日(土)13日(日) 金山町下原公民館ホール
 19日(土)20日(日) 飯田市立中央図書館
 26日(土)27日(日) 駒ヶ根市立赤穂公民館
 7月3日(土)4日(日) まなびパークたじみ
 10日(土)11日(日) 春日井市サンテラス高蔵寺店

(長野県 飯島町 鈴木むつみ)

伝言板

●「写真を使って絵本を作ろう講座」の連載開始

「発達」(年4回発行・ミネルヴァ書房)の第77号('99/1/25)から中川素子・和田直人・石井光恵の3人で、「写真を使って絵本を作ろう講座」の連載を開始しました。6回で完結の予定です。'99年4月現在、連載②まで出ています。誰でも撮れる写真を使って、手作り絵本を作ろうというもので、「写真の魅力を絵本と合わせることで、いかにイメージを飛躍させ、その断片的なイメージを総合的に構成させていくか」がコンセプトです。毎回、楽しく愉快で、魅力的なアイデアを提供していきます。第1回目のテーマは「子供の夢を絵本にしよう」、第2回目は「ぼく・わたしを絵本にしよう」で、子供を移した写真や子供が移した写真をふんだんに使っています。ご批判をいただければ幸いです。(石井光恵)

●ロシア児童文学・児童文化研究会の雑誌「カスチャール」(たきび)の出版のお知らせ

日本では、外国児童文学・文化の紹介、出版が著しく欧米に偏っています。「カスチャールの会」(1991年発足)では、独自の伝統、魅力をもつロシアの児童文学、絵本、児童文化の情報を提供し、この分野の研究に取り組んでいます。1999年秋発行の17号(A・プーシキン誕生200周年特集)には、特別寄稿L・リーベットの「プーシキンとマーグリナ」を掲載します。1-16号(1-5号はコピー)のバックナンバーあります。

連絡先 〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町1-10-3-403号
 「カスチャールの会」
 tel/fax 075-643-3246

(田中泰子 大阪外語大学教授)

●論文「絵本に描かれたグレート・マザー」

形の文化会編「形の文化誌(6)花と華」工作舎(1999年)絵本及び絵本論の中の母親像や親子観は、狭い定義づけのもとにステレオタイプ化されています。また、絵本の世界に硬直化していないジェンダー論をみつけるのも至難の業です。本当の母親像を見直す一つの契機になればと思い書きました。絵本の中のジェンダー研

究会もあったらおもしろいですね。なお、「形の文化誌」は、形の諸問題を科学的、文化的歴史的視点に立ち、総合的に研究する形の文化会の本です。書店で買えますが工作舎の電話番号は03-3465-5251 (fax03-3465-5254)です。また「形の文化誌(5)形を遊ぶ」(1998年)にも論文「絵本--目と手による認識論」を載せています。(中川素子)

●「ハムスター・まも日誌2」

5月14日におまたたかこの「ハムスター・まも日誌2」が小学館より発売されます。おとぼけハムスター「まも」のおかしな行動・性格・日常を描いた第一巻に続き、今回は成長した「まも」のいろいろな出会いやハプニングがちょっぴり哀愁を交えてコミカルに描かれています。(おまたたかこ)



● 昨年行われた学芸会で娘がかぐや姫に選ばれ、喜ぶ娘に私は衣装を作る事になりました。十二単を作るのと聞かれましたが私の作ったものは唐衣の装束でした。それは昭和43年に小学館から出版された世界の童話15巻の「かぐやひめ」に描かれたかぐや姫の着ていた着物です。大日方明先生の挿し絵は素晴らしく、久しぶりに娘の為に読んだかぐやひめは30年間抱いていたイメージそのものでした。娘もこの絵本が大好きになり今は娘の本棚に飾られています。私にかぐやひめを与えてくださった先生にお礼のお手紙を差し上げたいのですが小学館に何ってもご住所が分かりません。ご存知の方がいらっしゃれば教えて頂きたく投稿いたしました。どうぞ宜しくお願い致します。(志賀 幸喜 / 子そだてさろん)

● 中野区でフリーの「イラスト描き」をやっております。おもに文芸誌の挿し絵&カット(1色)をお受けしておりますが、4色ものや大きなもの等も、ご要望に応じて対応いたします。単価(見積もり)は応相談。お問い合わせは、お電話かFAXで。
 03-3227-2913 (事務所 TEL・FAX)
 090-3809-7403 (携帯電話)
 童話、児童文学系大歓迎。絵本共同制作大歓迎。

(作例)



児童文芸(株・ぎょうせい発行) '97・10、'98・1、5月号ほか
 どうぞ宜しくお願いいたします!(後藤洋輝)

◎絵本関係展覧会・イベント

●安曇野ちひろ美術館

《ちひろの春～自伝『わたしのえほん』展～》

会期：1999年3月1日(月)～5月11日(火)

夫・松本善明の選挙パンフレットとして企画されながら、ちひろが強い情熱をもって制作に取り組んだ『わたしのえほん』。夫・善明を語りながら、ちひろの作品としても芸術的価値を持ちうるものにしようとする

られたこの本は、ちひろの自伝的な絵本になった。本展では、その原画をはじめ、ちひろの自筆原稿や愛用の画材、アルバムなどのゆかりの品々を通して、ちひろの人間像を探る。

《ちひろの雨》

会期：1999年5月14日(金)～7月13日(火)

《現代中国絵本画家展》

会期：1999年3月1日(月)～5月11日(火)

日本文化の根底に流れている中国の文化—しかしながら、中国をはじめアジアの絵本に目が向けられる機会は少ない。本展では、見慣れた欧米の絵本とはまた異なる文化的アイデンティティをもった3人の作家の、個性豊かでエネルギー溢れる作品を紹介する。中国の絵本を読み解くことは、日本の絵本の歴史や発展を考える上でも意味を持つだろう。

《大正の童画家展》

会期：1999年5月14日(金)～7月13日(火)

《同時開催:世界の絵本画家》

展示室2では、11カ国29人の画家による約60点の作品を展示。3/1～5/11は、収蔵作品の中から、1996年国際アンデルセン賞画家賞を受賞したドイツの絵本画家クラウス・エンツィカートの作品や、イギリスのジョン・バーニンガム『おじいちゃん』表紙、ブライアン・ワイルドスミス『りすのおはなし』などの原画を展示する。また、日本の絵本画家では、瀬川康男『かっぱかぞえうた』、安野光雅『あいうえおの本』、谷内こうた『なつのおさ』などの原画を展示。

《おはなしの会とギャラリートーク》

毎月第2・4土曜日開催(参加自由、入館料のみ)

○おはなしの会…9:30～ 幼児室にて

○ギャラリートーク…14:00～ 展示室にて

「おはなしの会」では、当館司書が子どもたちにむけた絵本の読み聞かせを(大人の方の参加も歓迎)、ギャラリートークでは、開催中の展示について、展示担当学芸員がわかりやすく解説する。



「緑の幻想」

【開館】9:00～17:00(4/29～5/5は18:00まで)

【休館日】水曜日(祝日開館、翌日休館) 4/29～5/5は無休

【入館料】大人800円・中高生500円・小学生300円

20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方とその介添えの方、65歳以上の方は100円引き

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

TEL:0261-62-0772

●ちひろ美術館

《ちひろの技法 水墨画との接点》

会期：1999年4月22日(木)～7月11日(日)

たらし込み、没骨法、渴筆法などの伝統的な水墨技法を取り入れながら、ちひろ独特の水彩画が生み出された背景を探る。



「スイートピーと少女」

《赤羽末吉 絵本の世界展》

会期：1999年4月22日(木)～7月11日(日)

戦後日本を代表する絵本作家、赤羽末吉。昨年ちひろ美術館に寄贈された全遺作約6000展のなかから、『スーホの白い馬』をはじめとする代表作の絵本原画や、初公開の制作過程の資料を展示。

【開館】10:00～17:00(金曜日は19:00まで)

【休館日】月曜日(祝日開館、翌日休館)5/3 会館 5/6 休館

【入館料】大人500円・中高生200円・小学生100円

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

テレホンガイド:03-3995-0820

●大島町絵本館

*絵本原画展

《おぼまこと絵本原画展》

会期：1999年4月1日～4月29日

《ポーランドの作家ヨセフ・ウイルコン展》

会期：1999年5月1日～5月30日

《村上康成絵本原画展》

会期：1999年6月1日～6月29日

《名倉靖博絵本原画展》

会期：1999年7月1日～7月29日

《開館5周年記念絵本通信特集》

会期：1999年7月31日～8月29日

*企画展

《荻中幸雄油絵展》

会期：1999年4月1日～4月14日

《河合雅子洋画小品展》

会期：1999年4月15日～4月29日

《荒尾孝子イラストレーション展》

会期：1999年5月1日～5月13日

《谷内徹絵画展》

会期：1999年5月14日～5月30日

《関口静子絵画小品展》

会期：1999年6月1日～6月13日

《大島町芸文協写真展》

会期：1999年6月15日～6月29日

《山口ますみ透き通る世界》

会期：1999年7月1日～7月15日

《高尾博子イラストレーション展》

会期：1999年7月16日～7月29日

《絵本通信表紙絵本原画展》

会期：1999年7月31日～8月29日

*事業企画

《ウイルコンによる特別ワークショップ》

1999年5月2・3日

《絵本夢創造セミナー「歌えば広がる絵本の世界」》

1999年6月6日

村上康成氏&中川ひろたか氏による

《第2回絵本学会大会》

1999年6月19・20日

《水彩絵本教室》

1999年5月15・29日、6月5・12日、7月3・10日

講師：佐藤美美氏

《親子の創作教室》

「ぐるーり絵本」1999年5月22・23日

「せんぼう鏡をあげろ」1999年6月26・27日

「ペットボトルのロケット発射」1999年7月24・25日

《絵本館長の絵本講座》計5回

【開館】10:00～18:00

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)月一回整理日

【入館料】大人500円・中高生300円・小学生100円

〒939-0283 富山県射水郡大島町鳥取50

TEL:0766-52-6780

●軽井沢絵本の森美術館

《ドイツ・おもちゃと古城の旅～一志敦子原画展～》

会期：1999年3月3日(水)～6月21日(月)

エルツおもちゃ博物館(軽井沢)開館一周を記念し、ドイツの木製おもちゃと古城街道を取り上げる。マイスターの手による芸術的なおもちゃや美しい古城のイラスト約50点により、一志氏のこまやかで暖かみのある作品を紹介。

また「特集・ドイツ絵本展」では『もじゃもじゃペーター』(1845年)、『マックスとモーリッツ』(1865年)をはじめ、現代絵本作家5名(マルレーネ・ライデル、ヤーノシュ、ピネット・シュレーダー、アンネゲルト・フックスフーバー、ヘルメ・ハイネ)の原画を展示。

《併設展・世界のイラストレーター展》

原画―トーマス・ヒース・ロビンソン、H.A.レイ、マーシャ・ブラウン、ヨーゼフ・ヴィルコン、エロール・ル・カイン など

絵本―トーマス・ビューイック『英国鳥類誌』第一巻(1979年第二版)

ウィリアム・マルレディ『ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会』(1807年初版本)、ケイト・グリーナウェイ『Aはアップルパイ』(1886年初版本)など

【開館】9:30～17:00(最終入館16:50)

【休館日】火曜日(5/4開館、5/6休館)

【入館料】大人800円・中高生500円・小学生400円(エルツおもちゃ博物館との共通割引セット券 大人1,000円・中高生700円・小学生500円)

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

TEL:0267-48-3340

●世田谷文学館

《創刊500号記念「こどものとも」傑作絵本原画展》

会期：1999年6月26日(土)～8月15日(日)

「おしゃべりなたまごやき」「とらっくとらっくとらっく」「ふしぎなえ」など戦後の絵本を代表する傑作約20点の原画を前期・後期にわけて紹介。

○記念講演会

《「こどものとも」の歩み》

日時：1999年7月3日(土)14:00～16:00

松居直(福音館書店相談役)

《トーク&サイン会》

日時：1999年7月4日(日)14:00～16:00

田島征三(絵本作家)

【開館】10:00～18:00

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)

【入館料】大人300円・大高生200円・小中高生100円・65歳以上・障害者150円

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

TEL:03-5374-9111

●沼田絵本美術館

《高樹沙耶出版記念写真展》

会期：1999年3月27日(土)～5月9日(日)

《ニッサン童話と絵本のグランプリ大賞受賞作品展》

会期：1999年5月15日(土)～6月20日(日)

日産自動車が毎年アマチュアを対象に募集している創作童話と絵本の受賞作品展。毎回約四千編の応募作品の中から大賞作品を選出し、出版している。今回は第14回大賞受賞作品「リリ」を公開。

《しかけ絵本の世界展》

会期：1999年6月26日(土)～7月25日(日)

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀1-25-20

TEL:03-3708-8200

●板橋区立美術館

《'99イタリア・ポローニャ国際絵本原画展》

会期：1999年7月10日～8月22日
毎年恒例の絵本原画コンクール入選作品による展示。総点数500点程度。会期中幼児とその保護者、イラストレーター志望の方々に対象にワークショップもある。

【開館】9:30～17:00(16:30まで受付)

【休館日】月曜日(祝日の場合翌日)

【入館料】大人500円・大高生300円・小中高生100円

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27

TEL:03-3979-3251

●いわむらかずお絵本の丘美術館

トガリ山のぼうけん 完結記念展

《トガリ山のなかまたち》

会期：前期＝1999年3月18日(木)～6月27日(日)

後期＝1999年7月1日(木)～10月3日(日)

1991年にはじまった長編絵本『トガリ山のぼうけん』シリーズは、1998年刊行の8巻でついに完結。完結記念展では、シリーズが生まれるまでのエピソード、絵本づくりのこと、登場する生きものたちのこと、トガリ山に見る作者の自然観などに迫る。

絵本原画は、『トガリ山のぼうけん』のほか「14ひきシリーズ」「こりす」「かんがえるカエルくん」などの代表作も展示。



「トガリ山のぼうけん」(理論社)

【開館】10:00～17:00(金曜日
は19:00まで、入館は閉館の30分
前まで)

【休館日】月曜日(祝日開館、翌日休
館)展示替えのための臨時休館 3/
15～17、6/28～30

【入場料】大人900円・中高生700
円・小学生500円・幼児300円
30名以上10%割引(要予約)

〒324-0611 栃木県那須郡馬頭町大字小砂3097

TEL:0287-92-5514

●ピンポイントギャラリー

○おまたたかて展

《動物たちの居る処》

会期：1999年5月24日～5月29日
「ハムスター・まも日記2」の原画と
様々な動物たちを描いた新作や銅版
画の展覧会。

【開館】11:00～19:00(土曜の
み17:00まで)

〒107-0062 東京都港区南青山

5-10-1 二葉ビルB1

TEL:03-3409-8268



「あみものうさぎ」

●木城えほんの郷

《ちいさいおうちとカーランコレクション展》

会期：1999年4月17日(土)～5月30日(日)

*木城えほんの郷 森のえほん館

世界的に知られているカーラン・コレクションの中から、バージニア・リー・バートンの「ちいさいおうち」をはじめ、ワンダ・ガア

グ「100まんびきのねこ」、スロボドーナ「おさるとぼうしうり」などアメリカ黄金期の絵本作家13人の、全部で16作品80点の絵本原画が展示されます。

《絵本フェア》

会期：1999年4月17日(土)～5月30日(日)

*森のきこり館

毎回好評を博している、年に一度の絵本フェア。原画展出展の絵本や関連の書籍、また保育園、幼稚園、学校におすすめの本などが一同に揃います。

《常設えほん展示》

会期：1999年4月17日(土)～5月30日(日)

*森のえほん館

「ちいさいおうちとカーランコレクション展」にあわせた絵本展示、及び日本や海外の絵本、児童書が約10000冊展示されています。ブック・アドバイザーが、あなたの相談に応じます。

《読みきかせとおはなし》

第2、第4土曜及び日曜祭日、但ゴールデンウィーク期間は毎日

*森のえほん館とその周辺

絵本を読んでもらったことはありませんか、おはなしを聞いたことは？子どもも大人も、心を解放して、絵本やおはなしの世界をお楽しみください。

《第6回えほん大学》

会期：1999年5月22日(土)～5月23日(日)

*木城えほんの郷

1996年11月から始まったえほん大学も第一期の最終講義になりました。今回は、松井直さんの他に、ゲスト講師を迎えて、バージニア・リー・バートンを中心にしたアメリカ美術史などの講義になっています。

《手づくりあそび》

ゴールデンウィークの土曜、日曜、祭日

*森のひろば

石河内の自然のものを素材に、ノコギリや小刀を使って、自然の楽器、音の道しるべ、明りの道しるべなどを作ってみませんか。

《野だて》

会期：1999年5月5日(火)

*森のえほん館の下の栗林

えほんの郷の新緑のもと、お茶をお楽しみください。

《森のコーヒー屋さん》

ゴールデンウィーク期間中

*森の芝居小屋

○講演会

《斎藤惇夫 講演会》

日時：1999年4月24日(土)14:00～16:00

「子どもの成長と物語—絵本を中心に—」

日時：1999年4月25日(日)13:00～15:00
「戦後の子どもの本の基礎を作った人—瀬田貞二先生のこと—」
【講師】 斎藤惇夫
【会場】 石河内小学校講堂
【料金】 前売券 500円・当日券 700円
【定員】 各200名(保育あり：2才以上各20名)

《カレン・ネルソン・ホイール講演会》

日時：1999年5月9日(日) 13:30～15:30
「アメリカの絵本文化とカーランコレクションについて」
【講師】 カレン・ネルソン・ホイール
【会場】 森の芝居小屋
【料金】 前売券500円・当日券700円
【定員】 100名

【開館】 10:00～17:00

【休館日】 月曜日(4/26と5/3は開館)
【入館料】 前売り券 大人 500円(町内400円)
子ども 300円(町内200円)
当日券 大人 600円(町内500円)
子ども 400円(町内300円)

〒884-0104 宮崎県児湯郡木城町大字石河内475
TEL:0983-39-1141

●黒姫童話館

○企画展
《ミヒヤエル・エンデ特別展》～広がりゆく「モモ」の世界～
会期：1999年3月20日～9月27日
今回の特別展では、手書き草稿、自筆の挿絵など「モモ」誕生の原資料をはじめ、オペラや演劇の上演記録からカメのコレクションにいたるまで、「モモ」に関するあらゆる資料を集めてみました。

○オペラ

《オペラ・ファンタジック「モモ」》
会期：1999年8月8日(日)11:00/15:00開演
1995年に東京文化会館で上演されたオペラ「モモ」がミヒヤエル・エンデ生誕70周年の今年、童話館版となって上演されます。エンデが愛用したギターの演奏など、ここならではのオペラ「モモ」をご鑑賞ください。

【会場】 黒姫童話館 童話の森ホール
【入館料】 前売券 一般3500円・中学生2000円・小学生以下1500円

○童話の森ギャラリー特別展

《ちひろと黒姫展》
会期：1999年7月10日(土)～8月16日(月)
【会場】 童話の森ギャラリー
【入館料】 一般800円(童話館と共通)

○いわさきちひろ黒姫山荘

絵本画家いわさきちひろが生前アトリエとして利用していた黒姫山荘を、童話館の南側に移築し7月10日から一般公開します。

○講演会

日時：1999年7月10日(土)14:00～
【講師】 松本 猛氏(安曇野美術館館長)
【演題】 母いわさきちひろと黒姫山荘の思い出
〒389-1303 長野県水内群信濃町野尻黒姫高原3807-30
TEL:026-255-2250

●こどもの城

《あけてビックリ!!しかけえほんの世界「ラップルの冒険」》
会期：1999年4月24日(土)～5月16日(日)
この企画展では、しかけ絵本の楽しさをより多くの子どもたちに知ってもらうために、絵本のしかけをいくつかに分類し、大型の遊具にしたものを楽しんでもらうことからスタート。また、仕掛けを自分自身で制作することによって、造形的な楽しみも体験できる。
【会場】 こどもの城アトリウムギャラリー
【主催】 財団法人児童育成協会 こどもの城
【協力】(株)大日本絵画・(株)偕成社・(株)絵本の家・(株)ほるぷ出版・JURA出版局・駒形克己(グラフィックデザイナー)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL:03-3797-5665

●四季の森 絵本美術館

《日本人が描くグリム童話展》
会期：1999年3月6日～4月26日
展示作品：山本容子『白雪姫』、高野玲子『ヘンゼルとグレーテル』、若菜珪『ブレーメンの音楽隊』、スズキコージ『魔女が語るグリム童話』
【休館日】 火曜日
【入館料】 一般500円・小学生300円
〒378 群馬県沼田市玉原高原口
TEL:0278-23-9080

●竹久夢二伊香保記念館

《夢のふるさと～夢二・こどもの世界》
会期：1999年5月1日(土)～7月31日(土)
夢二が描いた子ども絵や絵本、童謡、童話などのこどものための仕事を紹介。

《夢二・花鳥春秋展》

会期：1999年6月1日(土)～11月20日(土)
夢二がデザインした半襟、浴衣の原画や花のスケッチなど季節感あふれる作品を展示。

《めずらしいそば猪口・かわいい豆皿展》

会期：1999年1月1日(金)～6月20日(日)

【開館】 8:00～18:00

【休館日】 年中無休

【入館料】 本館新館共通券：大人 1,500円(1,300円)
子ども 1,200円(1,000円)



「ツキノセカイヘノボルユメ」(雑誌口絵)

予約特別コースA:大人 3,000円

予約特別コースB:大人 5,000円

* ()内は20名様以上の団体料金

〒377-0102 群馬県北群馬伊香保町544-119

TEL:0279-72-4788

●小さな絵本美術館

・八ヶ岳館

《片山健 絵本原画散歩》

前期 1999年3月20日(土)～5月24日(月)

「おやすみなさいこっこさん」「もりのてがみ」「たのしいふゆごもり」「むぎばたけ」「天さあがった男」「タンゲくん」「もりのおぼけ」「えんそく」以上8作品の原画展示。

《片山健 絵本原画散歩》

後期 1999年5月27日(木)～7月12日(月)

「どうぶつはいくあそび」「どんどんどん」「もりへいったすとーぶ」「やまのかいしゃ」「ココロさんのかかし」「かっぱのてがみ」「おなかのすくさんぼ」「きつねのテスト」以上8作品の原画展示。

《今村光彦 写真展～大自然と小さな生命の旅～》

会期:1999年7月16日(金)～9月19日(日)

《ハンス・フィッシャー展》

会期:1999年9月23日(木)～12月5日(日)

・岡谷本館

《さとうわきこ 絵本原画展》

前期 1999年2月27日(土)～4月19日(月)

「おつかい」「せんたくかあちゃん」2作品の原画展示。

中期 1999年4月23日(金)～5月31日(月)

「かがくのとも」より原画展示。

後期 1999年6月4日(金)～7月12日(月)

「ばばあちゃん」より原画展示。

○イベント

《ばばあちゃんの磁器給付け教室》

「ぼくのカップ・私のお皿を作ろう」

【参加費】大人2,600円+食器代(マグカップ850円、皿600円位)

会員・子ども(高校生以下) 2,000円+食器代

※入館無料・要申込・限定20名・幼児のみの参加不可。

《ばばあちゃんをつくろう「よもぎだんご」》

【参加費】大人1,600円・会員・子ども(高校生以下)1,000円

※入館無料・要申込・限定30名

《びじゅつかんのおはなしの会》

毎月一回第四土曜日14:30～15:00

絵本の読み聞かせ、手遊びなど。参加無料。

【開館】10:00～17:00(16:30まで受付)

【休館日】火曜日(祝日の場合翌日)G.W.無休。臨時休館4/21・22、6/2・3

【入館料】*片山健

大人700円(600円)・中高生400円(350円)

・小学生300円(250円) ()は15名以上団体料金

*さとうわきこ

大人700円(600円)・中高生300円(250円)

・小学生200円(150円) ()は15名以上団体料金

〒394-0011 長野県岡谷市長地989-5

TEL:0266-28-9877

●水上町立植野記念美術館

《絵本原画展 3つの扉・OPEN!》

会期:1999年4月24日(土)～5月30日(日)

1960年代から70年代にかけて人気絵本を数多く生み出してきた女性作家3人の代表作に焦点をあてる。西巻茅子「わたしのワンピース」、上野紀子「ねずみくんのチョコッキ」、佐野洋子「100万回生きたねこ」など。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日、但し5月3日(月)は会館し5月6日(木)休館。

【入館料】一般(大人)500円・大高生300円・小中生200円

〒669-3603 兵庫県水上郡水上町西中615-4

TEL:0795-82-5945



「わたしのワンピース」西巻茅子/文・絵1969年(こくま社)

●ブライアン・ワイルドスミス美術館

《ワイルドスミス美術館5周年記念特別展示 ベスト・オブ・ベスト & 最新作『プレーメンのおんがくたい』》

会期:1999年2月4日(木)～6月1日(火)

開館以来、来館者から好評だった作品(アンケート中「印象に残った絵本」として回答された作品)を集めて紹介。

また、最新作『プレーメンのおんがくたい』(講談社90周年記念「えほん・世界のおはなし」シリーズ)の絵本原画を初公開する。

《1階展示 ブライアン&レベッカ「ABC」》

会期:1999年2月4日(木)～6月1日(火)

常設展示作品のひとつ「ワイルドスミスのABC」に加え、ブライアンの次女レベッカの最新作「アルファベット・ボックス」(1998年)の絵本原画を展示。

【開館】9:00～17:00(最終入館16:30)

【休館日】水曜日(年末年始・祝日は開館)

【入館料】一般700円・小学生500円

〒413-0235 静岡県伊東市大室高原9-101

TEL:0557-51-7330

●フジタヴァンテミュージアム

《'99 ヴァンテ世界の絵本展》

会期：1999年4月10日(土)～5月5日(水)

1. 世界の絵本

世界87カ国、約4700冊の絵本を紹介。自由に手に取って読める。

2. 絵本原画展示「長 新太 & 和田 誠」

長 新太『ぺろぺろぺろ』(BL出版株式会社)

和田 誠『ねこのシジミ』(株式会社ほるぷ出版)

3. ポップアップ、仕掛け、マザーグース、ロングセラー、複製絵本、昔話絵本、大型絵本コーナー

〈ヴァンテカルチャリング〉

アニメーション上映&トークショー(プロデューズ:阿部真理子)
～宇野亜喜良、沢野ひとし、たむらしげる、古川タク、山村浩二、

和田誠 各氏制作アニメーション上映～

トークショー出演者:宇野亜喜良、古川タク、和田誠

日時:1999年5月1日(土) 14:00～16:00(予定)

定員:150名

参加方法:電話予約(申込順)

参加費:1,000円

〔会場〕フジタヴァンテミュージアム 2F 展示スペース

〔開館〕10:00～18:00

〔休館日〕木曜日(4/29開館、4/30休館)

〔観覧料〕無料

〒151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

TEL:03-3796-2486

担当学芸員:山口和美(絵本学会会員)

●斑尾高原絵本美術館

《イギリス女流絵本画家展》

会期：1999年3月11日～5月末日

絵本業界の先頭をきるイギリスでは、才能あふれる女性絵本作家を多数輩出している。本展では、ヘレン・オクセンバリー、アンジェラ・バレット、シャーロット・ヴォーク、シャリー・ヒューズ、アニタ・ジェラーム、バーバラ・ファースら6人の作家を選び、それぞれ特色ある作風を紹介。

〔開館〕9:30～18:00

〔休館日〕火曜日(祝日開館、翌日休館)

〔入館料〕700円(飲物付) 幼児無料

〒389-2257 長野県飯山市斑尾高原 11492-224

TEL:0269-64-2807

●森のおうち

《油野誠一絵本原画展》

会期：1999年4月9日(金)～7月13日(火)

画家、油野誠一が童心にかえて描いた美しい原画の数々を展示

宮沢賢治「貝の火」(童心社)

絵本古事記「神々の風景」(JURA出版)

「まじょのおとしもの」「まじょのくに」(福音館子どものとも)

《東 逸子の幻想時間》

会期：1999年7月16日(金)～9月7日(火)

「翼の時間」「月光公園」「アマテラス」絵本原画展

《「魔女がおしえてくれたこと」スズキ・コージ 絵本原画展》

会期：1999年9月10日(金)～11月16日(火)

「山のディスコ」も同時展示

《高野玲子の「ねこ・ネコ・猫」展》

会期：1999年11月9日(金)～

猫にまつわる原画を展示

〒399-8301 長野県南安曇郡穂高町有明2215-9

TEL:0263-83-5670

●ペイネ美術館

《レイモン・ペイネ追悼展～永遠の恋人たち～》

会期：パート1 = 1999年4月24日(土)～7月23日(金)

パート2 = 1999年7月24日(土)～9月24日(金)

本年1月14日に90歳で亡くなられたレイモン・ペイネ氏の追悼展。当館のために描き下ろされた100号の大作、「世界の愛と平和」などの原画作品やリトグラフ・コロタイプ作品、ポスター、各国で出版された画集やペイネ氏の遺品などを紹介。ペイネ氏の画業をたどる。

〔開館〕9:00～17:00

〔休館日〕会期中無休

〔入館料〕大人900円・小人600円

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢湖217 軽井沢タリアセン内

TEL:0267-46-6161



© ADAGP, PARIS-SPDA, TOKYO 1999

●弥生美術館

《少女の友展～内山基と中原淳一、戦前少女文化の華～》

会期：1999年4月1日(木)～6月27日(日)

明治41年の創刊以来、少女雑誌では最長の47年の歴史を持つ、実業之日本社の『少女の友』。中でもひととき輝いているのが、昭和戦前(昭和6末～15年頃)のものである。本展では、名編集長・内山基のもと、中原淳一、松本かつぢといった新進気鋭の挿絵画家が活躍し、優雅な抒情性と洗練された華麗さで都会志向の女学生に絶大な人気を誇っていた『少女の友』の黄金時代を、多数の原画、口絵、ふるく等により再現。

〔開館〕10:00～17:00(入館は16:30まで)

〔休館日〕月曜日(但し5/3、5/4は開館)

〔入館料〕一般700円・大高生600円・中小生400円(隣接の竹

久夢二美術館と共通)、立原道造記念館も観賞できる三館共通券(1000円)もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3

TEL:03-3812-0012

●竹久夢二美術館

《竹久夢二「旅情紀行」展》～切り取られた【風景】の記憶～
会期:1999年4月1日(木)～6月27日(日)

日本画、水彩画、スケッチを中心に、雑誌、書籍、書簡等資料を合わせ、約220点の作品を展示し、竹久夢二の生涯における旅の軌跡をご紹介します。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日(祝日開館、翌日休館)

【入館料】一般700円・大高生600円・中小生400円(隣接の竹久夢二美術館と共通)※立原道造記念館も観賞できる三館共通券(1000円)もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2

TEL:03-5689-0462



KATSUMI KOMAGATA

◆「絵本学会 NEWS」記者募集のお知らせ

「絵本学会 NEWS」の取材記者を募集いたします。

あなたの住んでいる地域の読み聞かせサークルや家庭文庫、勉強会などを取材して、NEWSで紹介してください。また、絵本作家の仕事場探訪・インタビューなども、いずれ企画する予定です。

会員の皆さまの参加を心よりお待ちしております。我こそはと思う方は、どうぞお気軽に、事務局までご一報ください。

◆あなたの活動を教えてください！

NEWSに掲載するための情報をご提供ください。ご自身の活動はもちろん、お子様を通っていらっしゃる学校や幼稚園・保育園のこと、図書館・美術館など、あなたが参加されている活動なら何でも結構です。たくさんの情報をお待ちしております。

◆【伝言板】&【会員の声】コーナー開設！

【伝言板】…絵本に関する情報交換のコーナー。「こんな絵本を探しているんだけど…」「この絵本の出版社を教えてください」「サークル会員募集」など、知りたい情報、知っている情報をお寄せください。

【会員の声】…絵本について思うこと、絵本や絵本展覧会の感想、また絵本学会(NEWSも含む)に対するご意見・ご提案など、あなたの声をお聞かせください。

●投稿方法:FAXまたは郵便で、氏名(ペンネームも可)・住所を明記して、事務局までお気軽にご投稿ください。

絵本学会事務局 〒187-8505 武蔵野美術大学内(住所不要)

TEL:042-342-6091 FAX:042-342-5173

事務局からのお知らせ

●絵本学会研究紀要「絵本学」第2号論文公募のお知らせ

絵本学会研究紀要「絵本学」第1号は、現在印刷中でまもなくお手元に届く予定です。さっそくですが1999年度第2号の論文を公募いたします。下記の要領でふるってご投稿ください。

研究論文集投稿要領

1. 投稿者の資格: 絵本学会会員および準会員
2. 掲載の対象: 絵本に関する研究論文、調査研究、研究ノートで、未発表のもの。
3. 掲載者の決定: 受理した論文は、査読の上編集委員会が掲載の採否を決定する。
4. 刊行までの日程:(1)原稿提出受付期間は、1999年9月30日(必着)とする。(2)掲載の採否は、編集委員会の議を経て11月末日までに決定し通知する。(3)刊行は、1999年度内とする。

執筆要領

1. 日本語による横書きとする。
2. 原稿枚数は、1論文あたり400字詰め原稿用紙で20枚から40枚までとする。
3. 原則としてワープロ原稿とし、表紙に原稿の種類(研究論文、調査研究、研究ノート)、論文タイトル(和文、英文)、執筆者名(ローマ字を併記)、所属機関、専門分野を明記する。
4. 執筆にあたっては、「執筆要領」に基づいて作成する。「執筆要領」は、事務局に請求すること。
5. ワープロ原稿には、フロッピーディスクを必ず添付すること。データは、MS-DOSまたはマッキントッシュデータ。
6. 図版はモノクロを原則とする。カラー図版を希望する場合は、自己負担とする。
7. 論文掲載者には、掲載誌5部と抜き刷り30部を無料で呈する。原稿提出先
原稿は絵本学会事務局宛に郵送すること(FAXによる送付は不可)。

●第2回絵本学会大会(1999年度)開催のご案内

前号でもお知らせいたしました通り、第2回絵本学会大会は、1999年6月19日(土)・20日(日)の2日間大島町絵本館で開催いたします。大会プログラムは、以下の通り予定しております。参加申込方法などの詳細は別紙の案内をご覧ください。

全体テーマ:「もっと自由にもっと豊かに」ーこどもとおとな ブルーノ・ムナーリへのオマージュ

1999年6月19日(土) 大会1日目

13:00 1日目大会 受付

13:30～14:00 開会式

14:05～15:30 パネルディスカッション 「ブルーノ・ムナーリ」

16:00～17:00 ワークショップ 「木をつくろう」

展示 「コンピュータで触れようムナーリの世界」

17:00 総会受付

17:15～18:00 絵本学会1999年度総会

18:30～20:00 懇親会

1999年6月20日(日) 大会2日目

9:00 2日目大会受付

9:30~12:00 研究発表

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00 ラウンドテーブル(分科会)

- 1 絵本作家研究II -ブルーノ・ムナーリ-
 - 2 絵本と地域活動II -絵本で広げるこどもの世界-
 - 3 絵本と造形表現II -絵本とアニメーション-
 - 4 絵本と表現II -立山曼陀羅の絵解きを通して絵本を考える
- 15:00~15:15 閉会式

●理事会・運営委員会

1月17日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室
議題

・第2回絵本学会大会について
開催地を富山県大島町絵本館とすることを決定。大会のプログラムと内容は、第1回の方向性を継続させることになったが、詳細については、大島町絵本館と交渉しながら決めていくことになった。
・企画委員会より「絵本学会[関西圏]の集い」の報告と次回フォーラムを関西で開催することが報告された。

2月13日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室
大島町絵本館より高井進館長、岡本昭彦事務局長が参加
議題

・第2回絵本学会大会について
大会のプログラムと内容が検討された。今大会を昨年逝去したブルーノ・ムナーリへのオマージュとして位置づけ全体テーマを「もっと自由にもっと豊かに」-こどもとおとな ブルーノ・ムナーリへのオマージュ-とすることが確認された。
ワークショップは、ブルーノ・ムナーリの手法と関連させた「木をつくろう」とし、指導をこどもの城のスタッフに依頼することになった。ブルーノ・ムナーリの作品の紹介は、コンピュータやVTRによる展示が検討された。
・絵本フォーラムの開催について
企画委員会より現況報告があり5月に大阪で7月に東京でフォーラムを開催することになり、テーマは引き続き検討していくことになった。
・その他

3月17日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室
議題

・第2回絵本学会大会について
ワークショップ「木をつくろう」がこどもの城の協力により定員40名で行うことが決定した。ブルーノ・ムナーリをテーマにパネルディスカッションを行うことになりパネラーが検討された。
・研究紀要『絵本学』第1号の発行について
編集、割り付けの進捗状況が報告され、4月に発行することになった。
・その他
学会内の研究交流の場をもう少し積極的に進めていく必要があるとの意見が出され今後方法論など検討していくことが確認された。
若い絵本作家を育てていくためにも創り手のためのセミナーを開催

することが検討され、次のニュースで意見を募ることになった。

4月17日 理事会、運営委員会 於：武蔵野美術大学吉祥寺校会議室

・人事について
吉田新一会長が日本女子大学退任を機に会長職を辞任、6月の大会まで太田大八氏が会長代行を務めることが了承された。
・第2回絵本学会大会について
ワークショップ、パネルディスカッションおよびラウンドテーブルの内容と進行が最終的に確定した。
・「絵本学会ニュース」第6号の記事内容と発行日について
・その他

●専門委員会から

[広報委員会]

総合的な機関誌が発刊されるまでの間、「絵本学会ニュース」の記事を充実させていくことを前回のニュースでお知らせしました。今号ではその記事も紹介しております。今後も、投稿記事や依頼記事などを積極的に掲載していこうと思っております。
会員の皆さまからの積極的な投稿をお待ちしております。また、掲載を希望する記事など内容についても是非ご意見をお寄せください。
『絵本学会ニュース』は、事務局で編集制作しておりますが、何分人手が足りません。武蔵野美術大学まで時々来ることができる方で、編集やマッキントッシュによるデザインに関心のある方、お手伝いいただければ大変助かります。是非ご一報ください。(今井)

●絵本制作セミナーの開催について

絵本学会では、若い絵本作家を育てていくためにも創り手のためのセミナーの開催が必要ではないかと考え、セミナーの開催を検討しております。開催するにあたり形式や方法、講師について事前に若い会員の方々の考え方や意見を知りたいと思っております。是非ご意見をお寄せください。